

学校対抗決勝戦（対松商学園）		
深 志	0 - 3	松 商
白 鳥	6 - 1 1	沖 村
	5 - 1 1	
	1 1 - 8	
	1 1 - 9	
田 原	6 - 1 1	北 沢
	1 0 - 1 2	
	7 - 1 1	
白 鳥 竹 内	7 - 1 1	沖 村 百 瀬
	1 1 - 8	
	6 - 1 1	
	3 - 1 1	
	6 - 1 1	

初日の第1回戦は松本第一との試合から始まった。第一とは夏の岡谷スーパーカップで対戦しており、その際ダブルスで大苦戦したため、警戒して臨んだが、果たしてそのダブルスを落とす結果となった。4番をものにして決着したが、課題を残す試合であった。

続く豊科には圧勝し、いよいよ決勝進出を掛けた松本工業との準決勝に臨んだ。

総合力からは今回はこちらに部があるが、意外にも苦しい展開となった。2番竹内が競り合いで最終セットを落とし、試合は1対1の互角に戻る。続くダブルスは白熱の接戦で、ジュースに持ち込んだ最終セットをしのいだ大一番が勝敗を分ける結果となった。

松本工業とは、昨年度の新人戦は準決勝であたり一方的展開で敗れ、今春の総体では直接対決はなかったものの、県大会では順位の差がはっきり出た相手であり、これまでの大きな借りを返すことが出来たと言えよう。

待望の決勝進出で対戦するのは、県高校NO1の松商学園である。これまで打倒松商を合い言葉に練習を重ねたが、残念ながらその壁は破ることが出来なかった。しかし試合は予想を覆して、意外にも善戦した。1番は中信ジュニア優勝の沖村に対して、白鳥の出足は2セット落としたものの、そこから踏ん張り逆に2セット取り返し、相手ベンチを青くさせた。最終セットこそおとしたものの、対松商戦でこれほど肉迫した試合はこの大会で随一であった。ダブルスでは1セット先取するなど、相手へのプレッシャーは相当なものといえる。

翌日のシングルスでは、前回の全日本ジュニアの結果を反映し、シード権を持つての組み合わせで臨んだ。それぞれがベスト16入り（県大会進出）の目標に向けて試合が始まるが、意外なところでつまづくケースが目立ち、前回のベスト16の5名が、序盤から姿を消す事態となった。それでも県大会の切符が三枚得られ、大勢が決しようとしたところ、ベスト16決定戦を辛くもしのいだ松島が、その後の試合で松商勢を連破し、堂々ベスト4に名乗りを挙げた。準決勝でも全日本ジュニア県大会優勝の百瀬を相手に1セットを奪う展開をみせ、深志卓球部を会場全体に印象づけた。

次の県大会は今月末佐久市で行われる。ちょうど講堂の耐震工事が始まる直前で、講堂での練習ができる今年度最後の期間ともなる。他地区より一歩早く地区大会の結果が得られたので、その分余裕を持って県大会に臨むことができる。

次は団体戦でベスト4入りを目指して、新たな挑戦に取り組みたい。